

School Life (在宅看護論実習)

在宅看護論実習は保健所・保健センター・訪問看護ステーションにご協力をいただき実習を行います。各事業所の方々、各教室に参加されていたの方々、ご協力ありがとうございました。今後もよろしくお祈いします。

3週間の在宅看護論実習を終えた学生の感想です。

毎日の実習の中で初めは緊張や不安もあったが、日を重ねるごとに今日はどんな人と出会えるのか、どんな話をきくことができ、どんな学びができるのかと、楽しみを感じるようになった。この実習を通し、病気になった方への看護も大切だが、健康な方に対し健康維持・疾病の予防ができる様働きかけを行うことの大切さを学んだ。また、訪問看護では病院と異なり、在宅ならではの物品の工夫や援助方法があり、療養者・家族の望む療養生活に少しでも近づけられる様に看護をおこなっていた。このことから、病気を持ちながらも、その人が自宅で安楽にかつその人らしく生活を送れるように支援していくことが重要であり、そのためには療養者・家族との信頼関係の構築や、援助方法・内容について試行錯誤を繰り返し考え続けること、他職種との連携、そしてどんな時も笑顔で接することが大切であると学んだ。退院後の患者の生活の実際を見て、疾患ばかりに着目するのではなく、その人の生活背景・家族にも目を向け病院にいる時から退院後のことを考え、看護を行っていくことの大切さを学んだ。

訪問先で、家族に夜間の療養者に対する処置をお願いしたところ断れたケースがあった。医療者が望ましいと考えることも、家族にとっては負担になることを知った。この場面から、在宅療養において療養者と家族の意向と生活を尊重することが大切であると学んだ。在宅では対象の生活が基盤となって成り立っており、そこには対象と看護師の信頼関係が重要である。対象の意向を無視して支援を行ってしまうと、信頼関係や対象の生活を崩してしまうことに繋がる。そのため対象の生活を大切にしながら、療養のために必要となる支援を行っていくことが大切であると学んだ。

在宅看護学実習では、保健所と訪問看護ステーションに実習へ行きました。普段は入院する人の生活に触れてきましたが、この実習は地域に住む人々や療養者の実際の生活を見られる貴重な体験でした。保健所実習では、保健師は地域の特色と住民の声を聞いて必要となる活動を計画し、他職種で連携することで私たちの生活が成り立つことを知りました。訪問看護実習では、様々な療養者宅へ訪問する訪問看護師の柔軟性を感じることができました。療養者によって疾患や生活背景は異なります。介護をする家族の存在も在宅看護にとっては大きいです。訪問看護師はコミュニケーション力を駆使し、療養者と家族にとっての安楽な生活を提供します。これらの学びを元に、私は今後患者さんのことを知るにあたって、患者さんの住む地域や生活・社会資源はどのようなものかという新しい視点を持って安楽で良い看護に繋がりたいです。